

二月誕生日
おめでと
うございます



2月3日は立春(暦の上では春)だが 着衣を更に重ねないと寒いと言われる季節でもある。


あまつさえ 北国では大陸からの寒波襲来で吹雪に襲われ、“ホワイトアウト”で前が見えず交通事故も多発。その上あっと言う間の積雪で何キロもの車両渋滞で2日間も足止めになり、雪に埋もれ車中泊で亡くなった方の痛ましいニュースが流れていた。

そのようなアクシデントの中で救援して下さいました方々各運送会社の企業努力のおかげで預けた荷物・郵便物等も確実に届けられ、本当に有り難いと感謝に堪えない。

記者が住む福岡は列島の南に位置しているので一般のイメージは雪が少なく暖かい所と思っている方も多いのではと思うが、幼い頃より雪が多い。去年は全く降らなかったが 一昨年と今年1月は15cm以上積もって銀世界になり出掛けられなかった。

しかし、2~3日後は打って変わって初夏かと思う程暖かく、早く草取りをしなければと焦ってしまう。

昔から三寒四温と言ひ寒さ・暖かさが数日置きに繰り返しながら春に向かうので 当然ではあるが...

 福岡の春は太宰府天満宮の梅の便りから始まる。2月4日 例年より10日遅く飛び梅が開花とのニュース。訪れる花の便りと共に、世の中に明るい話題が増える事を切に願うこの頃である。

太宰府天満宮に学問の神として祭られている天神様菅原道真公の 詠んだ歌を 右に紹介します。一首は 天満宮の飛び梅の由来となった歌。一首は 太宰府へ向かう途中 詠んだ歌。あらためて歌の内容を時代背景と共にじっくりと考えるきっかけに いかがでしょうか。《注釈は諸説有ります》

詠人 菅原道真(菅公)

道真公は幼少期より文章や詩歌に秀で、学識・人柄をも見込まれ宇多天皇に重用右大臣に迄取り立てられた。その台頭を快く思っていなかった藤原氏。宇多天皇が退き醍醐天皇の御代に勢力を欲しいままにしていた 左大臣 藤原時平等の陰謀により太宰府へ。903年 此の地で没した。都を後にする時 自宅の梅の花に思いを込めた一首。「東から暖かい風が吹き始めたら その香りを風にのせて私がある太宰府まで届けておくれ 主(あるじ)がいなくても春を忘れないように」主人を慕い 都から太宰府まで飛んで来て根付いたのが“飛び梅”と言われている。



「この度・左遷地へ慌ただしく赴くため挨拶も出来ずせめてこの手向山の美しい紅葉を弊の代わりとして捧げますどうぞ私の心をお受取下さい」弊(ぬさ)=神に捧げる御幣 捧げる神は山に祭られた神と、信頼してくれた宇多天皇とにかかっているのでは。(記者の感嘆)急なことで挨拶も出来ず更に身に覚えの無い罪で 遠地に行かなければならない悔しい心情を込めた切実な一首

《百人一首・二十四番》

東風よかば
にほいおこせよ 梅の花
あるどなりとて 春な
忘れそ
(東風・こら)
(春と
わするな)

このたびは
幣もとりあへず 手向山
もみどの錦 神のまにまに
(幣・ぬさ) (手向山・たびげやま)